

山崎盆 織部好、溜塗鋤目、裏黒形丸、

〔茶式湖月抄三篇下〕精進椀に付く皆朱之折敷形寸法

折敷 さしわたし壹尺五分外法、高さ八分、外に壹分くろの玄、置あり、内深さ七分、角外壹寸六分、内壹寸四分、ふち厚さ二分半、宗左方の折敷寸法ハ、九寸壹分半四分、かハの高さ外にて六分半、内にて五分、厚さ貳分、角壹寸五分、

右角切の折敷形、これ皆朱の折敷といふなり、底いた外へのちりなし、

鋤目折敷寸法

一大さ一尺四分四方、但外法、底板のチリ共の寸也、五厘あり、一縁の高さ六分半、但總高さ板の玄、置ともに九分あり、一同厚さ二分、一角切目壹寸四分

一見付たてにかんな目あり、巾四分ヅ、板の裏に玄、置道、ふちの上端丸目もふちとごめなく、真のタメヌリなり、

曲折敷

一大さ九寸六分四方、但内法なり、底の厚さ見延候分ハ壹分七八リン、底に玄、置ハ此外也、一縁の高さ五分二厘、總高さ底の玄、置とも、一同厚さ貳分、一外のチリ四五厘、一角の切目壹寸四分、但曲目の中のすみより中すみまで、右檜木地上々の木、眞の溜塗なり、

不角切の折敷

外法さしわたし九寸六分四方、カワの高さ外にて八分、内にて五分半、同厚さ二分、右折敷底にて裏に玄、置あり、眞の黒塗なり、

山折敷

さしわたし外法上端にて壹尺壹寸、底板外法にて壹尺貳分半、此壹分半ハ兩方のちりに成也、底